

お世話になります。

7/22-24に、倉敷市におけるボランティア活動に参加させていただいた「富士見町・若井」です。

以下、「現場からの声」の書式により、アンケート回答させていただきます。

今回のボランティアツアー、私にとって初めての体験でしたが、貴重な機会をいただきありがとうございました。

災害に遭われた方々、地域に、微力ながら支援できた、ということであれば幸いです。

災害の「風景」は、私の近隣の街並みに置き換えても違和感なく、こうしたことは、普通に起こりうることなんだと改めて思いました。

一方、復旧に向けての現地皆さんの取り組み、特に組織だった手順や運営は素晴らしいと思いました。

また、皆さんの感謝の言葉やねぎらいといった心の温かさも忘れられません。

私も、過去に地域防災会で役員をしていたことがあり、災害時の取り組みを、机上シミュレーションで解決する場に何度か参加したことがあります。

しかし、シミュレーションでは、現実の状況を隈なく再現することは不可能であり、メンバー各自のイメージがそろわず、それをめぐってのやりとりに時間をさかれ、「どのように対処するのか」という本論のディスカスの重みがどうしても小さくなってしまいます。しかし、今回のような実際の場合では、想像の余地がなく、だれもが目の前の現実を見て、それに対処せざるをえない。

結果的にチーム活動にしても、非常にスムーズに運ばれる、知らない人同士のチームであっても、短時間に自ずからグループとしての一体感が生まれると感じました。

そういう意味で、こうした実際の場合に多くの方が参加されることは、被災者への支援（これが一番ですが）だけでなく、リアルな体験を通しての防災活動のリテラシー（知識・ノウハウ）蓄積が多くの人になされる、という点で非常に重要だと考えます。

実際の災害は、時間・場所当によって異なりますが、そうしたケースバイケースへの対応が重要だというフレキシブルな認識を持つこともできます。

是非、このような場を継続的に作っていただき、多くの方の参加の後押しをしていただく活動を続けていただければと思います。

最後ですが、同行のスタッフの方々、お世話になりました。感謝いたします。暑さ続きますが、体調管理にご注意いただきご活躍ください。

若井 洋一 富士見町